

COOP-JOSO News Letter

2021年2月3回号 発行：常総生協広報



2020年度活動テーマ「JOSO食材でかんたん・うちごはん ～食卓から笑顔あふれる未来へ～」

＼成長が楽しみ♪ 収穫する喜びを感じよう♪／ 苗をご自宅で育ててみませんか？

常総生協では「有機農業」の推進をおこなっています。常総生協がかかげる「有機農業」は、単に「●●農薬を使っていません」という事ではなく、「人の健康・生命を支えるもとだね」として考え、健康な土づくりから行っているか、地域や土地で循環させる農業をおこなっている、またそれを目指しているかを指します。

その推進の一環として、2009年から野菜そのものだけでなく「苗の企画」をおこなってきました。それは有機農業をおこなっている地場農家さんから実際に夏・冬野菜として出荷する苗をいただき「まずは私たち(組合員)でも育ててみよう！」という取り組みです。私たちは生産者に多くの事を求めがちですが、実際に作ってみると様々な気づきがあります。そして収穫の喜びもまたひとしおで、野菜を作る大変さを共に分かち合うことができます。



そして2021年、昨年より新しくお付き合いを始めたつくば市の「飯野農園」さんより「固定種」の「伝統野菜」を「自家採種」した「完全オーガニックシード(種)」を使い、「農薬無散布・無化学肥料栽培で育てた」、「組合員の皆様でも自家採種が可能」な苗の企画をおこないます。

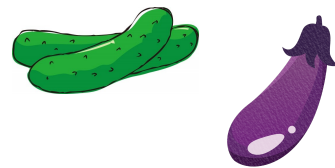
現在新型コロナウイルス感染拡大防止の為、様々な事が制約されていますが、こんな時期だからこそ家族で楽しく、野菜を育ててみませんか？

注文期間：2月3回・4回の2週間→ お届け：4月3回～5月1回の間

405250 「八町きゅうり」 1株 350円(税抜)

405251 「真黒なす」 1株 350円(税抜)

405252 「カリフォルニアワンダーピーマン」 1株 350円(税抜)



※受注の数だけ栽培を始めるので、目安として2021年4月3回～5月1回でのお届けとなります。生育状況により前後する場合がありますので、予めご了承ください。また、野菜そのものではなく**苗でのお届け**となります。

※例年通り「微生物農法の会」長島さんの苗も4月に企画予定ですので、そちらもお見逃しなく！

野菜の名前	概要	野菜の特徴	調理
「八町きゅうり」 ※長野県八町地区の伝統品種	爽やかな香りとやさしい甘み、歯切れ良くおいしい"昔ながらの"きゅうりです。	苦み・渋み・アクは無く、長さ20cm程度ですんぐりむっくりした形です。収穫量は少ないが、味は格別！	味噌をつけてかじるのが一番おいしいが、加熱調理してもおいしい。生食・サラダ・浅漬け・中華風炒め・スープ等
真黒(しんくろ)なす ※埼玉の伝統品種	戦前に多く作られていたなんでも使える中長の万能ナスの元祖。現在主流のナスの父親にあたります。	皮が柔らかく、肉質緻密で風味が良いです。優しい甘みで噛むほどに味わい深くなります。	アクも少なく調理しやすく、毎日食べても飽きない美味しさです！炒めもの・天ぷら・煮浸し・揚げ浸し・味噌汁
カリフォルニアワンダーピーマン	パプリカとピーマンの中間くらいの大きさ。爽やかな香りで甘いサラダピーマンです。(緑色→熟すと赤ピーマンも楽しめます)	肉厚でとっともみずみずしい。ゆっくり成長してパプリカのように実が大きく育つ。苦みやえぐみが少なく、子どもも生食ok。	サラダ・ナムル・炒めもの・天ぷら・煮浸し・揚げ浸し

交雑(F1)種と固定種の違い

例えば、スーパーなどにおかれている「大根」はどれも均一な形と食味ですが、これは「青首大根」という品種です。耐病性が強く・すが入りにくい「宮重長太大根」と、白く綺麗で・暑さに強い「黒葉みの早生大根」の遺伝子が掛け合わせてできたのが、「青首大根」(「青首大根」は合計で4種の交配から成っています。品種によって必ずしも2種ではありません)です。このように異品種を掛け合わせた種を「交雑(F1)種」と呼び、市場流通で主に出回っています殆どのものがこの「交雑(F1)種」です。

対して「固定種」とはその品種が固定された地域の気候や風土に適応しているのが特徴で、全国各地で栽培されている「伝統品種」と呼ばれるものは固定種であることが多いです。また、自家採種が可能で、タネ屋(種苗メーカー)から毎年タネを買うことがなく、持続的に野菜を育てることができます。

固定種の利点	交雑(F1)種の利点
味が良い	発芽・生育・形が均一になりやすい
自家採取できる	収穫量が多く、品種によっては通年で栽培が可能
様々な病気に耐病性を持つ個体がある	特定の病害に耐病性をつけやすい
多様性・環境適応力がある	毎年種を販売できる(種苗メーカー利益)

※野口種苗研究所 2019年「タネがあぶない」講演会資料より一部抜粋

タネの現状とジレンマ

タネの現状については、主要農作物(米、大豆等)は国内で自給されていますが、野菜のタネに関しては8~9割を海外に依存しています(※朝日新聞掲載コラム:「食卓のタネあかし」より抜粋)。また上記の通り、交雑(F1)種は一作毎にタネを購入しなければならずタネ採りができません。直近では「ゲノム編集技術」によりGABA高蓄積トマト苗の開発、流通が始まり、常総生協でも問題提起として2021年1月2回newsletterにて掲載致しました。

作物=栽培方法や近年では「認証(マーク)」に目が行きがちですが、タネそのものについては種苗メーカーが独占しており、個々の生産者だけではコントロールが行き届かないのが現状です。

ここで重要なのは、**交雑(F1)種と固定種の両方が必要だ**という事です。「じゃあ全ての作物を固定種にしたら良いじゃないか!」という意見もあるかも知れませんが、交雑(F1)種のおかげで、誰もがいつでも、そして安く食料を得るができていますのも事実です。各生産者は作り手である前に一経営者として、一定の収入を前提に持続的に作物を作り続けるには?という問いを常に持ちながら栽培し、私たちのもとへ届けてくれています。

そうした生産者の葛藤や交雑(F1)種の恩恵を受けながら今日も生活している事、そして農産物の低価格や形の均一性を求め生産者にそのように作らせているのは、他でもない私たち消費者であることも忘れてはなりません。

少しずつですが、常総生協で固定種を育てています

3年前より常総生協敷地内に「苗プロジェクト」として、自家採種用としてのワタを栽培しています。そして2020年に飯野農園さんからいただいた「固定種」から「自家採種」した人參のタネを蒔きました(品種は「Touchon」というフランス生まれのタネです)。

今年の1月に収穫初年度を迎え、人參を試食しました。市販の人參と比較して鼻に抜ける風味、何より味が濃く、市販の人參の味が何とも無味な気がしました(味わいは旬・鮮度・品種で左右されますので、当然といえば当然の結果でしたが)。逆にいえば、野菜の品種はなにか?旬はいつなのか?如何に鮮度が重要なのか、など食べることを通じて考えさせられる機会となりました。

少しだけ畑に人參を残しておき、今年の夏にタネを収穫予定です。そのタネを再び植え来年の収穫に備えようと思います。



＼成長が楽しみ！ 収穫する喜びを感じよう！／生育や調理写真をみんなで投稿しよう(^^)



常総生協公式インスタグラム (<https://www.instagram.com/coopjoso/>) を開設しました(ユーザーネーム: coopjoso)。COOPJOSOのある暮らしをテーマに組合員の生の声を発信していきたいと思っています。ぜひフォローしてください! !

コロナ過で巣ごもりばかりで気持ちが滅入りますよね。こんな世の中だから、家族で成長を楽しみながらみんなで投稿(共有)してみませんか?

#常総生協 苗 とキーワードをつけてください。

掲載したものは、後日常総生協にて紹介をさせていただく事もあります。

No	題名	感想
21	はだしのゲンが見たヒロシマ	はだしのゲンの貴重な体験を聞き、原爆の恐ろしさがわかった。 皮膚を垂らした人々は、道の両側の野菜畑にバタバタと倒れてゆく。野菜が冷たくて気持ちが良いからだ。夜になると「水ー水ー」の大合唱。そうして水を飲んだ人は皆、3、4秒で事切れる。悲惨！私たちはこれを自分や自分の親兄弟、家族の姿に置き換えて感じ、考えなければならない。原発事故によって同じことが引き起こされはしないかと。
22	はだしのゲン誕生物語	作者の「原爆という言葉＝屍体のすさまじい姿」の説明には説得力がありましたが。”明るくたくましく生きる姿”に貫かれている物語からは「原爆を呼び込んだ戦争の責任を何一つ解決していないという思いを読み取るのは容易ではありません。
23	よみがえる科学者ー水戸巖と3.11	原発の恐ろしさを知っている国なのになぜ？とずっと思っていました。今も思っています。40年くらい前に生活クラブの職員と一緒に大洗海岸に、東海原発反対の風船をあげに行っただのを思い出します。 30年も前から福島第一原発事故の経過を予見したかのように警告を発して行動した科学者、水戸巖がいたのにそれを知らなかった自分。裁判所の持ち出す”社会通念上”との判断基準は「皆ボーとしているのにそれを知らなかった自分。裁判所の持ち出す”社会通念上”との判断基準は「皆ボーとしているから、これで安全ということだろう」ということです。水戸夫人が家族の遭難死を乗り越えて伝えたかったのもこのことでは。
32	対談「東葛から問う」放射線対策と原発の明日	感想は1度目に借りた時に書いているので省略します。今年は多くのDVDをお借りしました。大変勉強になりました。いろいろ便宜をはかって頂き、感謝しております。
49	放射能症候群	2011年3月11日後の体調不良の話。庭の花の奇形の話。「うちも同じ」とうなずくことが多かった。
51	フード・インク	新型コロナウイルスの流行の最中、自分たちの暮らし方から考えるのに「フード・インク」を借りました。10年以上も前の内容ですが、食の安全を考えるために今必要な映像だと思いました。食料の大量生産から生まれる食中毒があることを知ったのは大事なことだと思いました。
59	甘くない砂糖の話	家族で見ました。みんなが砂糖の怖さが分かって良かったです。子供もお菓子を食えるときに「これ砂糖入ってるよね。」と確認していました。
60	いのちの食べ方	シンプルで複雑な食の大量生産。美しい映像（写真のような）ゆえに、「屠殺」も作為なく、クールに。肉がこうして私たちの口へ、体へ、「食の流れ」として受け取ることができる。そしていいの？これで？と。食事をしているスタッフを見ながらどんどん感じてくる。何ができるかな？何を食べる？これから？と。友人が工業製品を食べているんだなと。セリフがない雄弁さを感じました。見終わり、しみじみと。 食べ物、動物も野菜も機械化された食べ物に。命の食べ方について考えさせられた。
71	ひめゆりの塔	民間人まで巻き込んだ戦争のリアルが生々しく描かれていた。民間人が降伏しようと叫んでも誰一人耳を貸さずに、軍人には大和魂に泥を塗るのかと怒鳴られる。降伏しようとする人々が、敵前逃亡のスパイ容疑をかられて、殺される行為が沖縄戦ではたくさんあったのだろう。今だに基地問題に悩まされ、そして米軍人が問題を起こしても理不尽な法に守られている。
74	命に国境はない	2004年イラクで武装勢力に拘束され、直ぐに解放された。帰国後日本で「自己責任」とバッシングを受けた3人の中の一人高遠さん。ずっとイラクで支援活動が続けられていた事を初めて知り知りました。私たち日本人は中東のことをほとんど知らないけれど、実はアフガニスタンにも、イラクにも親日家が多い。イラクの現状についての詳細は、日本の報道ではあまり解らないので、これは貴重なDVDです。

※皆様からの文章は原則として修正しない方針ですが、全体のバランスを考え修正させて頂く事もあります。

※DVD貸出申込は注文用紙orホームページ上の[組合員問い合わせフォーム](#)にて、ナンバーとDVD記入してお申込み下さい。

＼関東子ども健康調査支援基金がインタビューを受けました／
＜つなぐ思い 震災10年＞（４）原発事故 影響忘れない 「ホットスポット」点在 東葛地域 ※東京新聞2021年1月5日【千葉版】掲載内容

東京電力福島第一原発事故で、比較的高い放射線量が観測された「ホットスポット」が点在する東葛地域。事故から十年近くたっても、放射性物質に汚染された指定廃棄物の処分方法が決まらず、柏市は県内市町村別で最多の千六十四トンを保管し続ける。住民たちは今なお、健康被害の救済や、脱原発を呼び掛ける活動に取り組む。

被ばくによって生じる小児性甲状腺がんの疑いを調べるため、エコー検査をする市民団体「関東子ども健康調査支援基金」は、茨城県守谷市の常総生協に事務局を置く。共同代表を務める木本さゆりさん（51）＝松戸市在住＝と佐藤登志子さん（49）＝我孫子市同＝は「子どもたちをどうすれば守れるのか。それが活動の出発点」と振り返る。

事故当時、木本さんは長男が小学校三年生、長女が二歳、佐藤さんは長男が小学校二年生。県内の一部浄水場で乳児の摂取制限の指標値を超える放射性物質が検出されたため、松戸市などで応急給水が行われたり、小学校校庭で土壌汚染が判明したりしていた。各地で自然発生的に行動を起こした母親らがつながって「放射能から子どもを守ろう関東ネット」を結成、二〇一三年に基金が発足するきっかけとなった。

同年十月以来、茨城、千葉、栃木、埼玉、神奈川の五県と東京都で、震災時に十八歳以下だった人を優先対象に巡回検診を行い、二〇年二月までの受診者は延べ一万九百七十人に及ぶ。現在は新型コロナウイルスの感染防止対策で休診中だが、今年三月の再開を目指して準備を進めている。防止対策を施した「模擬検診会場」を設営し、受け付けの様子を紹介する画像を作成、運営協力団体に発信するなどの工夫もこらす。

休診期間中には、受診者のうち、病院での治療を勧めた人を対象にアンケートを実施。三人が甲状腺の手術をしていたことが分かった。木本さんは「原発事故との因果関係は不明だが、検査の必要性があらためて分かった」と話す。各地からは検診再開を望む声が寄せられている。二人は口をそろえる。

「要望や不安に寄り添い続ける。震災時に幼く、被ばくの実情や影響を知らない当事者に向けた周知が重要になってくる」



検診再開に向けて打ち合わせをする木本さん（左）と佐藤さん（右）＝いずれも常総生協本部で



検診再開に向け設営された「模擬会場」

検診継続のために「関東子ども健康調査支援基金へ」ご寄付をお願いします

関東子ども健康調査支援基金では「少なくとも2011年の事故時に生まれた子が15歳になる2026年まで」は検診を続けていく方針ですが、試算の結果、資金が足りなくなってしまうことが予想されています。もし、エコー検査機等の高額な機械が壊れてしまったら、検査がストップする事態にもなりかねません。

今後は感染症対策のための受診人数削減や受診者低迷に伴う収入減が見込まれ、さらに機材の老朽化に伴う修理費など支出増もあり、赤字運営が続いていくと思われます。その為、皆様からのご支援がより重要となります。今後ともご支援下さいますようお願いいたします。

常総生協では注文書で基金への寄付ができるようになりました。

関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号：472 1口1000円

※1口なら472に1と記入（入力）、2口以上なら472に必要口数を記入（入力）してください。